



ウオーカー氏著  
通貨論第二十二編  
交換紙幣の理論

大藏省  
翻譯課



474  
A 1422  
11



第貳拾貳編

交換紙幣ノ理論

末章

前編ノ所論ハ蓋シ今亦余輩ヲシテ已ニ本書第十九編ニ  
 閱陳シタル交換紙幣ノ理論ニ付ス亦幣ヲク一書  
 已スノ果シテ利益タルヲ許スモノナリ  
 今本編ニ論スル所ノ至緊至要ナル論題ハ所謂<sup>レラ</sup>交換<sup>ノ</sup>  
 是レナリ抑モ施スニ良法善則ヲ以テシ布クニ<sup>レラ</sup>完<sup>ニ</sup>善<sup>ノ</sup>銀  
 行政治ヲ以テスルアラハ紙幣ノ過度發行ヲ<sup>テ</sup>被<sup>ニ</sup>是<sup>ノ</sup>相<sup>ニ</sup>制<sup>ス</sup>  
 下ハ以テ其紙幣ヲハ金銀貨ノ<sup>テ</sup>定<sup>ニ</sup>限<sup>以</sup>内<sup>ニ</sup>止<sup>メ</sup>ソ<sup>レ</sup>ヲ  
 超過セシメサルニ足ルヘキ乎  
 余輩曾テ之レヲ知ル合衆國ニ於テハ只名義而已交<sup>ノ</sup>  
 紙幣アリテ<sup>テ</sup>紙幣ハ太々<sup>ニ</sup>超過<sup>セ</sup>リ而ルニ會<sup>テ</sup>驚<sup>ハ</sup>慌

大正十一年四月  
張侯爵寄贈

孫豆村一郎譯

歳

ノ感觸ニ由リ、  
減縮スル太シキニ至リ却テ其意ニナル紙幣ヲ以テ正金  
ニ代用セサリシナラバ依然通用シタルヘキ所ノ正金ノ  
流通高ヨリモ下流ニ住スル程ニ紙幣ノ流通高ヲ減少セ  
シラ

然ルニ陸續紙幣ヲ増發シテ止サリシ頃ニハ紙幣ハ顯然  
超過セシニ拘ハラズ金貨ノ打歩ハ當時ニ存セシヲ至  
ニ又市場ノ諸相場上ニ於テ其打歩ヲ承認セシヲモ  
カス蓋シ特種ノ用途ニ供スル小額金貨ノ  
ト並價ニ交換スルヲ得タルハ殆ト當時ノ常ナリシナ  
又以上ノニ事實ニシテ真ニ同時ニ並行セルモノ  
波「ロールド、オバストーン」ニシテ「ノーマン」ニ語入ノモ義ハ以  
ニ列ヲ得タルナリ即チ米國正金紙幣トモ其



果シテ然ラハ抑モ何故ニコソ其ハ成行クヘキハ、右  
シ夫レ金貨ナルモノハ諸物品ノ相場ニ比シテ下落  
ランニハ抑モ何故ニ其金貨ハ早クモ海外ニ流出シテ以  
ノ其購買力ヲ増スノ道ヲ求メサ、一ニ是ノコトニ  
ル所ノモノナリ

此論ニ反對主義ヲ唱フル理由ノ一タル答論ハ  
者ノ闕陳セシ所ナリ夫レ「プロフエツメル、ケーヤ子」其  
他ノ論者カ金貨供給ノ運轉如何ニ付テ闕陳シタル所見  
ノ如ク凡ソ金貨ハ其超過セルヨリ其金貨カ他邦ニ占ム  
ルヨリ、遙ニ低廉ノ地方價  
且ソ頗フル及遠ノ時  
月  
日  
保  
省

紙幣

地

ノ金貨ハ殖産

上貿易ニハ毫モ其結果ヲ計  
 トシテ下落スルアルハ實ニ然リ且此際ニ於テハ恰  
 ニ各般斯類ノ原因皆然ルカ如ク市場ノ諸物品トモ其相  
 場騰貴シ且ツ諸般勞役ノ給銀上ニモ諸物價騰貴ノ影響  
 ヲ及ホシ且亦徒ニ投機事業ヲ奨励スルノ餘リ有要ナレ  
 生産ニ要用トスル所ノ資本ヲシテ俄ニ莫大ノ利得  
 メントテ千百ノ徒業ニ投セシムルアル而已

「チャーレス、フランシス、アダム」ト、時方  
 三十七年「フレクシヨンス、オツボン、ゼ、プロセント、ステ  
 イト、オス、ゼ、カールンシ、エシ、ゼ、ユナイテット、  
 題セル一論ヲ吐露セリ其入ニ曰ク  
 ハ、タ増加シタルニ金銀ノ両貨ハ其進路ヲ

4

ニ一時ハ諸物價ヲ昇騰セシメ、以テ社會ノ振興ニ業  
 ニ異常ノ激動ヲ添フルニ付未タ世ノ細思セサル由  
 ヲ貨幣ニ呈スルモノナリト

然ルニ爰ニ尚ホ亦經濟上ノ原因モ一ヲ  
 和キハ此金貨ノ低廉ナル地方價ヲ永遠ノ久シキニ添  
 レメテ以テ最大ノ災害ヲ波及スルニ足ラシムル也  
 リトス

余輩ハ今「ツーク」氏ガ千八百二十六年著述セシ一小冊  
 子ヨリ尤ノ文ヲ引用スヘシ曰ク凡ソ他ノ諸國ト交易シ  
 得ヘキ品物が流通貨幣ノ起退セシガ為メニ其輸出増進  
 ノ結果ハ生スル程ニ至ル迄  
 請

省

夫レ一邦國ニ生産スル品物ハ皆一様均一ニ  
 外國貿易ニ適スルモ而已ニハアラス凡ソ何レノ土地  
 何レノ邦國ト雖モ其輸入品ノ代價ヲ拂フニハ先ツ他ノ  
 物ヲ以テセスレテ若干ノ品物ヲ以テ其代價ニ充テサレ  
 モノハ之レナシ試ニ今爰ニ二種ノ輸出品アリトセンニ  
 其内甲品ノ相場低落スル時其品ノ輸出迅速ナ  
 輸出支レニ準シテ低落スルヨリモ遙ニ太シ然ル  
 爰ニ甲乙ノ両品アランニ其甲ハニ輸出品  
 ナルニ乙ハ輸出品ニアラサル場合ニ於テハ輸出品ナル  
 甲若シ些少ニテモ其相場ノ低落スルヲアルキニハ  
 ガ為メ其甲ノ輸出ハ莫大ニ増加スルニ由ルニ由ルニ  
 乙ハ反令々若シ其相場ノ莫大ニ低落スル

51

其乙品ハ海外ニ輸出セサルニ由ルニ由ルニ  
 貿易ノ方ハ猶ホ水ノ流ルカ如シ夫レ貿易ヤ其水ノ  
 針路ヲ轉變スルノ容易ナラサル恰モ水流濱岸ニ入ルノ  
 深キ河流ノ如シト宜ナル哉此言ハ非常ノ事ナリ  
 汎ノ漲溢セシタルニ足ル而已  
 借テ今ノ世ニ當リ合衆國ノ主要輸出品ハ何々ノ品類  
 ルカハ是レ天地自然ノ已ニ明示スル所ナリ苟ホ更ニ詳  
 言セハ抑モ我米人ハ如何ナル種類ノ品物ヲ以テカ能ク  
 衆ニ秀テ且ツ能ク自カラ好シテ以テ凡ソ我カ購買セル  
 凡百品物ノ代價ニ充テ若クハ又我カ結約セシ百般ノ負  
 債ヲ代ヘスヘキモノナルヤ能ク天地自然ノ明示  
 スルニ

具ハ何レノ事類ノモノゾト云ハ

皆是レ山野<sup>林</sup> 産物ニノ<sup>サ</sup>ハナク此三昔  
ハ実ニ合衆國カ他邦ノ未タ<sup>リ</sup>サル國益ヲ享有スル  
モノ也抑モ我米國ハ非常ノ天賦ニ由リテ九ノ此等諸品  
ヲ生産スルノ費用頗フル低廉ナルカ故ニ我米國ノ農家  
ハ歐州市場迄ノ運賃ヲ引去リタル後尚ホ其賣上代金  
本國ニ持帰りテ以テ宇内自他邦國ノ手工社會カ未タ曾  
テ夢ニダモ知ラサルノ快樂愉快ヲ極メテ以テ今日  
活シ得ルナリ以テ我米國生産費ノ低廉ナル推知スヘ  
而已我合衆國ハ是レ迄久シノ外國貿易ノ盛ニ<sup>ス</sup>此等  
農産物ノ巨額海外ニ流出シ去リタリ九ノ此等ノ諸品ハ  
我米國<sup>ノ</sup>造ノ輸出品ナリサレハ實ニ有用欠クヘカラス  
ルモノナリト云フモ過当ニ<sup>ラ</sup>ハルヘシ  
我農事ノ狀況夫レ斯ノ如ク<sup>レ</sup>ハコソ蜀黍ノ如キ木

如キ食物ノ如キ木材ノ如キ其他海上用品ノ如キ九ノ  
以上ノ諸品ハ我米國ヨリ輸出セ<sup>ル</sup>諸品中其價最モ低廉  
ナル物トナリテ止マサル所以ナリ  
支レ金貨ヤ其物ハ紙幣超過ノ為メニ海外ヨリモ反テ我  
米國ニ一層低落スル<sup>ト</sup>モ或ハナク<sup>シ</sup>ニミアラサレハ  
尤モ已ニ右ニ列舉シタル諸物産ノ如キハ已ニ尚ホ一層  
低廉ナリ抑モ金貨ハ其海外ニ流出シ去ルヤ必ス百<sup>分</sup>  
買入物ヲナスカ若クハ諸負債ヲ弁償スル等ノ心願ヨリ  
ハ外ノ目的ニテ海外ニ行カサルヘシサレモ亦九ノ此等  
用途ノ為メニハ金貨ニアラストモ自他ノ諸物品モ亦大  
ニ利用セラル<sup>ハ</sup>モノトス  
九ノ紙幣ヲ使用スルヨリシテ<sup>ハ</sup>影響ヲ農業社會ノ利害  
ハ波及スルハ<sup>ハ</sup>物ヲ輸出セシ<sup>ル</sup>由

歳省

リテ生シタル代金ハ 農産物ヲ賣上テタル代金タルハ  
固ヨ 論ヲ疾タス然リト雖凡ノ農業社會ハ其生産ヲ  
起シ且ツ其一家ノ消費用ニ共センガ為メニ他ノ職業他  
ノ貿易ノ物産ヲ購買セサルヘカラス何トナレバ其職業  
其貿易ハ全ク我米國內ニ消費スヘキ品物ヲ生産スレハ  
ナリ而モ又其職業其貿易ハ尚ホ丈レ而已ナラス宜シク  
外國品ノ競争ニ罹ラサルノ保護ヲ得テ之レヲ生産  
モノナリ其保護ノ法ハ外國品ナレハ運輸ノ費用莫大ナ  
ル尚ホ積嵩ノ品物ノ如シ又外國品ナレハ丈レニ重税  
賦課シテ以テ歳入ニ充ル等免ニ角外國品ヲ排除スルノ  
目的ヲ以テ内國産ノ品物ニ保護ヲ施スモノトス  
夫レ斯ノ如ク外國品競争ノ保護ヲ受ケタレ曰國品ニ至  
リテハ其相場ヲ低廉ナラシムルノ内國競争ノ外何事モ

ラサルハ明了ナリ果シテ然ラハ前文ニモ已ニ余輩カ  
縷陳シタルカ如ク我米國ノ通貨ハ其超過ノ為メニ落  
シタル時ニハ凡ソ以上内國産諸物品ノ相場ハ其生産費  
ニ比スレハ蓋シ其当初ノ相場ヨリモ高價ニ登ルヘシ今  
爰ニ謹テ其狀況ヲ評論セハ我古今ノ史上ニ於テハ凡ソ  
農業社會ハ勿論其他輸出品ヲ生産スルノ業ニ従事セ  
者ヲハ其財力ヲ尽サレメテ以テ凡ソ彼ノ人為ノ約束上  
ノ保護又ハ天為自然ノ保護ヲ仰テ以テ内國用ニ消費ス  
ヘキ品物ヲ生産スル業ニ従事セル社會ヲ利スルノ跡ヲ  
リタリ夫レ然リ然シテ此舉ニ於ケル首タルノ媒介ハ即  
チ我銀行紙幣是レナリ  
以上ハロフエツソル、アマサ、カオ、カ、カ、氏ノ闡陳セシ  
理論ナリ因是觀之同 下 所説 下落ハ我紙幣ノ相場上

而己ニ相起リテ金貨  
如シ同ノ所説夫レ斯ノ如シト雖モ其形ヲ異ニスルモ  
農業社會ニ取リテノ一税トナリタルハ是レ蓋シ金貨ノ  
打歩アリ何ヲカー税ト云フ曰ク農業社會ノ生産スル品  
物ハ金銀兩貨ヨリモ尚ホ其相場低廉ニ下リタル是レ  
リサレハコソ其品物ハ擧ケテ皆我米國ノ輸出品トナリ  
タリ然ルニ其他ノ貿易職業ノ如キハ地方限リ、運貨タ  
ル紙幣超過シ随テ其相場下落セシニ由リ騰貴シタル物  
價ヲ以テ國內ニ於テ其品物ヲ販賣スルノ益ヲ受ケタリ  
地方限リノ通貨ハ通貨ノ用ヲ完フスルニ足ル  
乎  
夫レ彈力ハ通貨ニ取リ好欲スル所ノ元素ナリトノ并解

ヲ馭レ余輩ハ方サニニ利益ノ交換紙幣ニアルヲ陳  
レタリ則チ其一ハ萬般ノ使用上ニ於テ其太ク便利ナル  
ト是レシテ凡ソノ商業取引上ニ於テ要スル巨額ノ正貨ノ  
如キハ仮令ヒ金貨ト雖モ其量目頗フル莫大ナルカ為メ  
之レヲ運搬シ之レヲ取扱ヒ之レヲ計算スル等其間ニ  
不便ヲ生スル鮮少ナラス然ルニ尚ホ夫レ而已ニ止マラ  
ス巨額ノ正貨ヲ衆目ニ公示スル片ハ不良ノ心ヲ生セシ  
メ為メニ大罪惡ヲ企テシタルノ患害アリトス交換紙幣  
ノ第二ノ利益ハ其物タル金銀貨ニ比スレハ其低廉ナル  
ト是レナリ何トナレハ凡ソ一邦國ノ正貨タルヘキ金貨  
若クハ銀貨ノ内僅ニ其一部分ヲ發行紙幣ノ担当トシテ  
準備スルハナリ  
以上ニ利益ノ内其第一益ハ均クノ紙幣ニ屬スルモノナ



ルノ明了ナルハ尚ホ往獨逸「ハムホルグ」府並ニ荷蘭「ア  
ムステルダム」府ノ紙幣ノ如ク曾テ露京「セント、ペートル  
スホルグ」府ノ商業銀行ニテ一回發行シタル「ルーブル」紙  
幣ノ如ク又我合衆國大藏省發行ノ正貨交換紙幣ノ如シ  
「セント、ペートルスホルグ」商業銀行ニ於テハ千八百四  
十年ニ於テハ成貨並ニ地金ヲ抵当トシテ發行シタル  
未償紙幣ハ壹億千四百萬「ルーブル」ヨリ少カラナリレ  
ナリ即チ之レヲ我米貨ニ引直セハ九千五百萬「ドル」ラ  
ル程ノ巨額ナリタリ  
交換紙幣第一ノ利益ハ即チ右ニ開陳スル所ノ如シ果シ  
テ然ラハ銷還ノ備ニ供シタル正貨並ニ地金ヲ超過シテ  
紙幣ヲ發行スルニ由リ其第二ノ利益トスル所ハ其紙幣  
ノ低廉ナルヲ是レナリ

抑モ斯般ノ通貨ハ果シテ低廉ナシニ相違ナキ乎又ハ斯  
般ノ通貨ハ通用貨ノ價格ニ換用スルニ言憑ヲ以テスル  
ニ足ル乎

抑モ我合衆國ノ發行紙幣ノ如キハ千八百三十七年ノ昔  
チナル経歴ヲ嘗メ其後引續テ改制変令ヲ經タルノ後モ  
尚ホ些少ノ正貨ヲ抵当トシテ發行シタル所ノ内乱前ノ  
紙幣ノ如ク只其名而已交換ノ銀行紙幣ハ低廉ナクスト  
ハ余輩之レヲ論弁セサルナリ余輩顧フニ左記「プロフェ  
ッフル、ベリイ」氏ノ所論ニ付テハ僅々タル思慮アリ才識  
アルノ米人ハ蓋シ同意セサルハレサレハ同氏ハ其著経  
濟論第三百六「ペイヂ」ニ論シテ曰ク凡ソ金銀ノ両貨ヲハ  
全國百穀ノ需用ニ應シテ維持セシムルノ費用ハ此銀行  
紙幣ノ割ヨリ生ムル損失ヲ以テ數倍之レニ應シ得ルナ

ルハシト  
若レ已ニ開陳セル所ノ如ク九ノ千八百十六年ヨリ千八百六十年マテニ蓋シ我合衆國內ニ通用シタル正貨ハ其最大額ト至モ尚ホ我國歳入總額ノ壹割ニ及ハサルモノトセハ一朝商業上ニ一條ノ災害ヲ生シタルヨリシテ四ケ月間ニ我生産ヲ僅々三分ノ一ニ減縮セシムルコトアラハ我國百般ノ需用ニ應スルニ足ル正貨ノ生産費ト同様ナル損失ヲ招クモ亦量リ難カルヘシ抑モ我合衆國ノ水車所ナリ鎔鉄所ナリ其他ノ製造所ナリ凡ソ此等ノ工業ハ皆當時ニ減シテ或ハ四分ノ三トナリ或ハ三分ノ二トナリ或ハ半減トナリタリ而モ是ノ狀況ニ止ル亦僅々數ケ月ノ間ノミナラス數年ノ星霜ニ涉リタルニアラヌヤ夫レ惡貨幣ヤ其物ハ其災害ヲ諸事物々ニ波及シタルニ

ハアラスト至ル「プロフェツソル、パリイ」氏ノ所論ヲ弁解スルニ充分足ルノ災害ヲ生シタルナリ  
抑モ價格ト信憑ト能ク通用貨幣上ニ調和シ以テ混合物ヲ組成シタル恰モ「レイデー、スマート」氏ノ水分勝チナル麦酒ノ如キ我合衆國ヨリ眼ヲ轉シテ爰ニ只余輩ヲムデ抑モ國其地ニハ既ニ善良鞏固タル銀行原理ヲ遵守シ且ツ其地ノ銀行ハ數々其発行紙幣ヲ交換シ且ツ充分ノ準備金ヲ保持シテ以テ公眾ノ需求ニ應シ其発行紙幣ノ銷還ヲ安全ナラシメ公眾ハ之レニ由リテ以テ或ハ暴行ノ為メ或ハ衆人感動ノ為メ或ハ銀行殘虐ノ為メニ驚怖セラルハナキ邦國ニテアリナカラ其國通用貨ノ價格ニ換用スルニ信憑ヲ以テスルハ果シテ經濟ニ相違ナキヤ否ヤ  
向ハシメヨ

ウキロスキ「氏ハ九ノ大英國並ニ愛爾蘭ニ於テ其通用  
貨ノ元素トシテ信憑ヲ使用スルニ由リテ省減スル高ハ  
大英國(即チ大英國並ニ愛爾蘭)ノ資本ノ三百貳拾分ノ一  
其歳入ノ十分ノ一ナリト豫算ヲ立タリ

同氏ハ其著「ラクエツチヨン、ドス、バンクス」ト題セル書  
中第百五十五「バイヂ」ニ其事ヲ論セリ就テ参考スヘシ  
又「ハンケイ」氏ハ其著「オン、バンキン」ト題セル書中第  
四九ノ両「バイヂ」ニ論シテ曰ク英國銀行ヨリ其銀行紙  
幣ヲ発行スルニ由リテ利益ヲ得ル一左ノ如シ英國政  
府ノ利得ハ殆ト貳十萬封度英國銀行ノ利得ハ稍二十  
萬封度未滿ナリト

「ウキロスキ」氏ノ豫算ハ右ノ如シト虽氏復タ彼「ウエ  
ルソン」氏並ニ「プロフエツソル、プライス」氏カ主唱シタル

尙封度ニ封度ナル兩種ノ銀行紙幣ヲ発行シテ以テ準備  
金ノ高ニ関スル純然タル銀行原理ヲシテ其勝ヲ一時ニ  
得セシムルアラハ大英王國內ノ紙幣所有者ニハ左マテ  
危険ヲ増スノ恐レナクシテ其省減スル高ハ尚ホ二三倍  
ノ多キニ至ルハ毫モ疑ヲ容レサルナリ蓋シ是レ果シテ  
經濟ニ相違ナキヤ否ヤ勿論若シ夫レ看官ニモテ彼「ット  
」氏並ニ「ウエルソン」氏カ其持論ヲ主張シテ抑モ交換紙  
幣ハ全價ヲ有セル正貨ノ進路ヨリ其方向ヲ轉シ能ハス  
トノ銀行主義ノ主唱者タル經濟學者ノ所見ニ同意スル  
アラハ其看官ハ其紙幣發行ノ初發ノ費用ヲ省減スルヲ  
以テ至要ノ目的ト視察セサルヘカラス蓋シ其省減ノ一  
コノ此初發ノ費用ニ於テ是非ニ省減セント欲スル所ノ  
モノタルハキナリ若シ夫レ通貨ナルモノハ唯々貿易上

ノ一要具ニ止リタラシムハ其通貨ハ其最大ノ效用ヲ達  
スル為ニ要用ナルヨリハ毫モ他ノ費用ヲ要スヘカ  
ス蓋シ銀行主義黨ノ所見ニ由レハ凡ソ成貨並ニ地金ヲ  
以テ流通額ノ全價ニ應スル迄準備金ヲ設ケタル紙幣ハ  
其浪費ノモノタル猶ホ草野ニ象牙柄ノ肉又鉄道築造ニ  
白金被ノ鍬ヲ用ユルト一般ナルカ如シ  
夫レ然リ然ト虽モ退テ他ノ一方ヲ觀察スレハ凡ソ銷  
用ノ為メニ準備シタル正金ノ高ヲ超過シテ発行シタル  
紙幣ハ仮令其處置精密周到餘スナシト虽モ猶且ツ往々  
多少トナク超過スルノ傾向アルアラハ余輩想フニ通用  
貨ノ初発ノ費用ニ於テ右ノ如キ省減アルモ毫モ眞実ノ  
經濟トナラサルト吾人ハ決論セスニハアルヘカラス  
夫レ其目的ニ應スルニ充分ナラサルノ通貨ハ毫モ其レ

ヲ低廉貨ト云フヘカラス知ラスヤ「ガラチン」氏ノ「コン  
デレイション」ス、エトセイトラト題セル書中ヲ其貳拾「  
イデニ曰ク

凡ソ穀倉ヘ五穀ヲ配分スルヨリ毎年得ル所、紙幣ヲ  
以テ正貨ニ換用スルヨリ生スル所ノ利得ヨリモ蓋シ  
遙ニ大ナリ夫レ農民ハ好天氣ニ暴露シタル假地板ニ  
於テ其小麦ヲ打落シ以テ能ク之ヲ其穀倉ニ配分シ得  
ルノ好季節ニ遭遇スルト往々ニ之レアリ然レモ我氣  
候ニ於テハ凡ソ細心ノ農民ハ不定ノ利ヲ一時ニ俛俸  
センヨリモ寧ロ保全ナラシムルヲ好ム故ヲ以テ其目途  
ニ取リテ必用欠クヘカラサル雜費ノ如キハ之レヲ徒  
ニ省カントスルヲ尤モ嫌惡スヘキノ經濟ト考察思慮  
スルガ如シ以上ノ狀況已ニ然リ果シテ然ラハ若シ夫

レ正貨ニ換用シタル紙幣ニシテ已ニ無抵当不安全ナ  
ランニハ金銀貨ノ如キ多費ナル器具ノ經濟モ亦均シ  
ク然リト

抑モ目的ニ應スルニ充分ナラサルノ通貨ハ毫モ低廉貨  
ニアラスト云フ所以ノモノハ他ナシ佛ノ經濟學士「ウオ  
ーロスキ」氏ガ今ヨリ前千八百六十八年ノ十月佛國經  
濟雜誌中ニ貨幣ノ發明ノ如キ古來蓋シ之ニ優ルモノ勿  
ルヘシ

抑モ貨幣ハ凡ソ人間社會ノ事々物々中ニテ其費用些少  
ノ割合ニテ其要務ヲ遂ケ完フスルモノナレハナリト  
蓋シ今爰ニ余輩カ引証スル所ノ適例ハ則チ木綿製所ノ  
如キ一大建物ノ基礎ニ就テ近ク例証スルモノ是レナリ  
夫レ斯ク一大家屋ヲ建設スルニ臨テヤ其建築方ハ先ツ

地下ヲ割り其堀下ル一冬寒霜ノ届カサル地下ニ至テ止  
ム恐ラクハ尚ホ地下堅石ニ達シ初メテ止ニ而已夫レ其  
建築方ヤ爰ニ至リテカ數千金ヲ投シテ以テ或ハ石ヲ入  
レ或ハ其他ノ仕懸ヲナシテ其基礎ヲ鞏固ナラシムルモ  
ノトス然ルニ夫レ此部分ハ毫モ建家中ノ部類ニ入ルニ  
アラス又苟モ紡績室又ハ貯藏室等ノ實用ヲ為スニモア  
ラス然ルモ猶且ツ大金ヲ投シテ基礎ヲ安固ナラシムル  
彼レカ如ク夫レ然リ夫レ我合衆國今日ノ銀行紙幣ノ割  
ハ尚ホ本<sup>木</sup>綿製造所ノ建築方ガ其勞費ヲ惜ムノ餘リ粗造  
ノ基礎ヲ据ヘ其局終ニ左ノ如キ慘狀ニ陥リタルカ如キ  
ト同種類ノ經濟ヲ企圖シタルモノニ外ナラス則チ其製  
造所ハ基礎ノ完カラサルニ由リ終始下ノ方ニ傾キニ階  
廻リニ太シキ接合ノ見ユルニ至リ俄ニ雇者職工等ノ心

中ニ騷然トシテ驚愕ヲ懷カシメ諸方ノ壁等ヲ支柱スル  
カ為メニ莫大ノ入費ヲ遣拂ヒ其他地板ヲ固メ且ツ亦莫  
大ノ不利ヲモ顧ミルニ違ナリ更ニ稍々基礎ヲ据置替ル  
等其局終ニ軟弱破裂シ掛リタル建家ヲ僅ニ存スルニ過  
キスシテ何時破滅ノ患ニ罹ルヤモ量リ難ク到底何レノ  
時ニカ其慘状ヲ視ル必スヘキノ建築ト一般ナリ  
今余輩カ其所見ニ就テ考察ヲ下ス所ノ論者ノ如キハ以  
上ノ如キ愚癡ヲ目シテ頗フル過激ノ地金論者ト嘲笑ス  
ヘシ尚ホ且ツ其論者ハ其所見ヲ主唱シ夫レ一製造所ヲ  
レテ一時大ニ下ノ方ニ傾向セシメナル而已ナラス尚ホ  
且ツ下地窖ヨリ上最高樓ニ至ル迄凡ソ建家ノ全面ニハ  
一條ノ破壊所ヲモ生セサルモ其建家ノ基礎ハ徐々其廣  
大ニ減シ随テ其用材ノ數量モ亦随テ減少スルナキ

ニアラスト成程右ノ如キ基礎ヲ据置ク間ハ蓋シ其製造  
所ハ一千人ノ壓搾又ハ強カナル機關ノ鼓動ニ由リ震動  
スルナアル中ハ或ハ危モアランカ  
凡ソ一邦國ノ流通貨幣ニ致セシ信憑モ亦唯斯ノ如クナ  
ル而已ト余輩ハ信スルナリ夫レ通用貨幣ニ致セシ信憑  
ハ毫モ災害ヲ生スルナク又苟モ患害ヲモ来スナキ  
ノ場合モ或ハ之レアラン然レモ又其信憑ハ殖産貿易ノ  
全面ヲ一撃ノ下ニ震動セシメ随テ生産ノ機械交換ノ要  
具ノ運<sup>動</sup>ハ其力ヲ失シ其精細ヲ欠ク蓋シ他者ノ為スヨ  
リ太シキモノ亦ナキニシモ非ス  
夫レ生産ノ別ルニ益廣且ツ大其貿易倍位置ヲ占メ分業  
ノ別ルニ精密周到ナルノ近代ノ殖産上ニ於テ爰ニ一大  
事実トスルハ需用供給ノ相分ルニ勢ニ由リテ殖産力

ヲ失フ。是レナリサレハコソ今日ハ決シテ充分ノ実利  
ヲ占メ得サルノ過度生産ニ陥リ明日ハ高價製造者其他  
銀行者ノ愚鈍臆病ナル徒ニ殖産ヲ中途ニ停止シテ生産  
ヲ平均シ市場ヲ決濟スルニ必用ナル所ノモノヲ違ニ不  
足セシムルノ患アリ夫レ需用供給ノ相震動シテ止マサ  
ルハ實ニ物理上ニ於テ万避クヘカラサル所ナリ夫レ然  
リ然リト虽斥抑モ我米國近代ノ制ノ如キ九ノ全世界ニ  
テ消費スル若干種ノ品物其半ヲ二三ノ都府而已ニテ製  
造スルノ今日ニ於テハ需用供給ノ震動ヲシテ一層太シ  
キノ浮沈ニ至ラシメ其局太々以テ生産ヲシテ其經濟上  
ノ長所ヲ減縮セシメ随テ亦勞役傭工ヲシテ不規則不定  
ニセシムルモノナリ余輩ノ見ル所ヲ以テハ此傾向ハ  
一厘一毛ツ、萬國通商用ノ貨幣ヲ以テ抵当トセサルノ

紙幣ヲ發行スルニ由リテ益々其勢ヲ逞クシ終ニ不幸ヲ  
以テ其局ヲ結ハスンハアルヘカラス  
實ニ夫レ然リ然リト虽斥九ノ信憑ヲ以テセル流通紙幣  
ノ抵当トスルニ要用ナル如キ巨額ノ金銀ヲ貯蓄シ置キ  
入ラシテ無益視セサラシメント欲スルハ難事ナリサレ  
ハコソ「プロフェツソル、グライニス」氏ハ英國銀行ノ金庫ニ  
二千万磅ノ金貨ヲ貯蓄シアルヲ目撃シ大喝一声シテ曰  
ク

夫レ其礦脈深遠ナル濠州金坑ニ均シキ此金庫ノ如キ  
ハ能ク其現状ヲ想像名状スヘカラスト  
以上ノ言ハ「プロフェツソル、グライニス」氏カ其著述「グリ  
ンレブルス、オスカーレンシー」題セル書中第百九拾  
三「ペイヂ」ニ論セシ所ナリ同氏ハ又其著書第二百一「ペ

イデニ論シテ曰ク是レ一金坑ヨリ一金庫ニ運移セラレタルモノナリト

蓋シ「プロフェツソル、プライイス」氏ハ右同段ノ意思ヲ吐露スルハ數回ナリトス

實ニ「プロフェツソル、プライイス」氏所論ノ如ク嗚呼濠州ノ金坑欵英國ノ金庫欵兩者毫モ相譲ラス苟モ相劣ラサルナリ九ノ字内廣ク諸邦多シト雖モ此等ノ兩所程巨額ノ金貨在ルハナク然リ而シテ此等兩所ハ均シク同一ノ金屬ヲ所有シナカラ兩者ノ間ニ著ルシキ差アルハ亦奇ナラスヤ夫レ濠州ノ金坑ニ於テハ其金ハ寸毫ノ價ヲモ有スルニアラス又其金ハ一人ノ用ニダモ應スルニ足ルニモアラス猶ホ夫レ而已ナラス其金ハ一片ノ品物ヲ購買シ又ハ至少ノ負債ヲモ弁償スルカ為メニ利用セララル

ニアラサルナリ然ルニ英國銀行ノ金庫ニ於テハ其金貨ハ即坐ノ價ヲ有スルモノナリ其金貨ハ之ヲ金坑ヨリ掘出シ之ヲ商業ノ用ニ適應スルカ為メ精製シテ純質ノモノトナシ以テ廣ク世界ニ供給スル迄ニ費シタル巨額ノ勞役ヲ包含スルモノナリ其金貨ハ以テ英國勞役ヨリスル至貴ノ產物ニ交易スルノ用ニ適應スルモノナリ又其金貨ハ之ヲ東西南北ニ輸送シテ以テ東ニ至レハ支那ノ茶、西ニ至レハ米國ノ穀類、北ニ至レハ「レベリヤ」ノ毛皮、南ニ至レハ印度洋ノ香料ヲ購買スルニ足ルモノナリ然ルニ「プロフェツソル、プライイス」氏ハ又其著書二百十九「バイヂ」ニ英國銀行ヨリ金貨ヲ引去ルヘキヲ論シテ曰ク夫レ英國銀行所貯ノ金貨ハ遊金ナリ現ニ用途ニ供セサルモノナリ其金貨ハ空シク庫中ニ保藏セララルニ過



キスレテ一時ニ減七セラル、ノ恐レアルモノナリ漸次  
減少ニ就ク而已ト

夫レ「プロフェツソル、プライス」氏カ論陳スル所ノ如ク英  
國銀行庫中ノ金貨ハ果シテ遊金ナルカ現ニ用途ニ供セ  
サルモノナルカ又一時ニ減亡ニ就クヘキモノナルカ

夫レ荷物若クハ旅客ノ通行ニ便ナルノ橋梁ヲ目シテ以  
テ鼻息ヨリモ繁忙ナラストナスカ又蒸氣車ノ機関ヨリ  
モ繁忙ナラストナスカ

夫レ殖産興起ノ用途ナリ工藝進歩ノ用途ナリ或ハ亦政  
府ノ用途ナリ凡ソ以上ノ用途ニ供スル一建家ノ基礎メ  
ル地ノ下ニ深ク埋メタル石ヲ目シテ以テ現ニ之ヲ不用  
視スルカ

抑モ英國銀行庫中ノ金貨ノ其眞実ノ符號ハ廣ク世ニ通

用シ三千萬口ヲシテ其ヒタノ交易ヲ舉行セシメテ以テ  
寔ニ繁忙齟ナラサルモノナルニ之ヲ目シテ是レ遊金ナ  
リ現ニ用途ニ供セサルモノナリトナスカ如キハ學識ノ  
至ラサル見解ナルニ他ナラサルヤ必セリ矣

通貨論終



